

講義名	対)19～日本語総合A/15～日本語基礎【留学生科目】				授業形態	
担当教員	小野 勝	開講期・曜日・時限		前期 木曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング
主題と概要						
大学生活を送るための基礎的な日本語能力を身につける。この授業では、日本語の文法項目について、基本的なものから日本語能力試験上級レベルのものに至るまで、幅広く意味や使い方を学ぶ。また、文法知識を学ぶだけではなく、実際の日本語でのコミュニケーションや作文でどのように使われるかを考え、様々な課題に取り組むことを通して、実際の生活の場面で応用できるようになることを目指す。						
到達目標						
授業で扱った文法項目の理解だけでなく、運用能力を身につけ、日常生活でのコミュニケーションや大学での学習に対応できるようになる。様々な場面において、日本語で自分の意見を伝えたり、課題を解決したりすることができるようになる。						
提出課題						
毎回、授業のテーマに即したワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
ワークシート、宿題、小テスト等は添削して返却する。参加者の多くに間違いが見られた問題に関しては、再度解説を行う。						
評価の基準						
授業中の課題達成度（20％）、小テスト等（20％）、中間の理解度確認（20％）、期末の理解度確認（30％） 授業を5回以上欠席した学生については、成績評価の対象から外す。						
履修にあたっての注意・助言他						
毎回の授業で出席をとる。 授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。 日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						

その他		
プリント資料等は必要に応じて配布する。文献は適宜指示する。		
授業計画		
第 1 回 授業の説明（授業の進め方、スケジュール、評価の方法、注意事項） 第 2 回 対象を視覚や感覚でとらえ、それに対する印象を送る表現を学ぶ 第 3 回 自らの行動の理由を送る表現を学ぶ 第 4 回 一つの事柄を受け、その一方、または双方について評価する表現を学ぶ 第 5 回 自らの感情、感覚がどの程度であるかと送る表現を学ぶ 第 6 回 「ない」を二度用いた、二重否定による曖昧さを含んだ意思表現を学ぶ 第 7 回 強い意思をもって自らの行動や相手への忠告を送る表現を学ぶ 第 8 回 中間の理解度確認 第 9 回 ある行動から導かれた結果が良い場合、悪い場合のそれぞれの表現を学ぶ 第 1 0 回 複合動詞を用いて、その行動がどの段階まで進んでいるかを送る表現を学ぶ 第 1 1 回 時間や場所の範囲を定め、ある物事がその範囲内のどこに位置するかを送る表現を学ぶ 第 1 2 回 その結論に至った理由を強調する表現を学ぶ 第 1 3 回 ある状況を仮定して、その時に発生が予想される事柄を送る表現を学ぶ 第 1 4 回 一方の状態の変化に含ませて発生する、もっ一方に見られる変化を送る表現を学ぶ 第 1 5 回 期末の理解度確認		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
○ ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
□ ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
○ オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
当週に学習した項目について、理解に時間を要した部分を中心に復習し、次週の小テストに向けて準備をすること。（1 2 0 分程度） 学習内容の定着を図るため、発話練習や文作成練習などを行うこと。（1 2 0 分程度）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
物事に自ら進んで取り組むことができるようになる。 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができるようになる。 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・整理し、解決できるようになる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
実務経験の有無及び活用		
備考		